令和4年度 第3回学校運営協議会（記録）

令和4年度第3回学校運営協議会を令和5年2月15日（水）10時00分より、9名の委員の出席のもと開催しました。

- ・北條 俊介 様（本校 PTA 会長）
- ・渡邊 一雄 様（真駒内東町町内会 会長）※欠席
- ・山名 常二 様（澄川第九町内会 会長、精進川美化・緑化の会 会長）
- ・菊地ひとみ 様（社会福祉法人札幌肢体不自由福祉会 施設長）
- ・戸倉 聡 様（医療法人仁友会日之出歯科真駒内診療所 会長）
- ・高橋 和明 様（札幌大学 教授）
- ・上林 宏文（本校 校長）
- ・近藤 正臣（本校 副校長）
- ・越田 淳（本校 教頭）
- ・橋本 雅志（本校 事務長）
- ・寺尾 瑞穂（本校 教諭）※欠席

最初に、「令和4年度学校評価」についての説明及び協議を行いました。今年度は、学校経営方針を反映した教職員評価の項目、及び Google Forms を使った回収方法の2点を変更しています。

学校評価の結果及び分析について、以下のように副校長が説明しました。「教職員評価」については、概ね良い評価が多かったが、記述式の中には児童生徒の呼称の件など真摯に受け止める必要がある意見がありました。「保護者評価」は、7割強の回収率となっており、Google Forms に提出方法が変更になったことの影響はあまりありませんでした。特に小学部の回収率が高く、小学部の保護者の学校教育への期待が高いことがうかがえました。校外学習については課題ありの回答がいくつかありましたが、これはコロナによる制限が緩和されたら課題が解消されることが見込まれます。ICT機器の活用は、より丁寧な説明と更なる活用・研修が必要ととらえています。「関係者評価」については、Google Forms に提出方法が変更した影響で、昨年度に比べ回収数が減少していました。また、学校のことをより知りたいという意見が多かったです。

続いて、委員の皆様からの質問やご意見を受け、それに対して回答や協議を行いました。主な内容は、以下の5点です。

- (1) 「学びの連続性について『あまりできていない』の回答が小・中学部の教職員からはあるが、高等部の教職員からはないのはなぜか？」の質問に対して、「コロナ禍のため他学部の授業を見に行けていないことの影響があったのではないか」、「高等部になってから新しいことに取り組んでも身につけることは難しいので、小中学部でやっていることの積み重ねが大切である」などの回答がありました。
- (2) 「ICT機器の利用は、意思表出の支援として肢体不自由の児童生徒には有効であるが、発達段階として認識能力がどれだけ育っているかも問われる。子どもたちの発達についての学びが、ICTの活用には必要である」との意見が出されました。

(3) 「高等部卒業後にICT機器は継続して利用できているのだろうか？」という質問があり、事業所の委員からは、「個別にiPadを利用する対応は、まだできていない状況である」や、「トーキングエイドを使用している利用者さんがいたり、欠席時のZOOMの利用を開始したりなど、少しずつICT機器の活用がされてきている状況である」との説明がありました。

(4) 「寄宿舎職員が『働くことの喜びの評価が低いことの原因』についての質問に対しては、「臨時寄宿舎指導員の定員が慢性的に不足していることの影響があるのでは」との回答があり、「委員の皆さんにも関心のある方が知り合いでいたら紹介してほしい」というお願いがありました。

(5) 学校評価の項目設定や、評価規準の在り方について、「教職員と保護者間で比較できるような項目設定」や、「教職員と保護者の評価規準の統一」、「最大と最小を基準として何%程度かを答えるプロット形式の実施」などについて、ご意見をいただきました。

次に、「地域とともに進める取組・共同活動」について、次年度の計画立案につなげていくことを目標に、前回の学校運営協議会で話し合われた内容を基に、具体的な案や希望を協議しました。協議の主な内容は以下のとおりです。

(1) フラワースマイル作戦について

- ・現在のところ、次年度も継続して行っていきたい。苗の確保はできている状況。継続的な水やりなどの手入れも行いたい。
- ・精進川緑化・美化の会とは厳密には別団体だが、簾舞で土地を借りて野菜を作っているグループがある。苗が余っているので、プランターで作れるのではと考える。トマト、ミニトマト、なす、きゅうり、ナンバン、キャベツ、サツマイモ、おくら、カボチャ、大根など。
- ・校内の栽培活動として行うこともできるのでは。
- ・サツマイモやカボチャ等なら収穫から時間をおくことが可能。高等部祭で販売することもできるのでは。
- ・調理方法を教えてもらって、一緒に加工することもできるのでは。

(2) 防災に関する取組について

- ・町内会との合同避難訓練や研修を進めることができるのでは
- ・澄川連合町内会では、単位町内会ごとに必要な訓練が「崖くずれ」や「河川の氾濫」など異なっていて統一して行うことが難しい状況
- ・本校は真駒内連合町内会と澄川連合町内会の両方と接しており、場所的には真駒内連合町内会の範囲の中になる。まずは真駒内連合町内会と連携を取るところから始めた方がよいのでは。
- ・他の肢体不自由特別支援学校では、避難訓練のときに必ず町内会から何人かヘルプにきてくれる学校や、毎回ではないが地域の方が避難訓練のときに見に来てもらっている学校がある。
- ・冬場の実際の避難を考えると、保護者が来校するまで地域のご家庭に一時的に避難させてもらうことを検討する必要もある。
- ・事業所では、晴れた場合に雪道を実際に移動してみる避難訓練をしているところもある。職員にとっては雪道で車いすを押す良い訓練となっている。本校で行う場合は、学校の目の前の会館に行くのがよいのではないかと。

(3) 合同イベントについて

- 大学では、2月にアイスキャンドルを作って並べ、町内会の皆さんを招いてお祭りを行っている。
- スポーツ文化系の学部では、パラスポーツを取り上げている教員もいて、スポーツタイプの車いすがあり、またボランティアも見込むことができそうである。
- 本校の雪山づくりで、アニメキャラクターの雪像を作ってほしいという要望があった。大学生のボランティアに頼むことができないだろうか。
- 地域のニーズによって、グラウンドや体育館を貸し出すことは可能か？の質問には、本校の児童生徒や教職員、福祉事業所などが関わらないケースは制約があるかもしれないので調べるとの回答が学校からあった。
- ボッチャなどのパラスポーツの取組は行いやすい。

(4) 情報の発信について

- 学校だよりの地域版は現在年3回にしているが、タイムリーな情報発信で回数を増やしていくことを検討しているところである。
- 子どもたちの学習成果として作品を展示する機会を増やしていきたい。QRコードによる感想の受付などがあると、さらに子どもたちの意欲につながる。

(5) 人材について

- コロナ対策の緩和によって、様々なゲストティーチャーを招いて学習活動を充実させていきたい。
- 臨時寄宿舍指導員など学校で募集している職員について、地域に適任者がいたら教えてほしい。

最後に、学校長から次年度の学校経営方針について説明がありました。主な内容は次のとおりです。

今まではコロナによる制約のため、十分な学習成果をあげることができなかったが、次年度は5類への移行などを踏まえて本格的な学習活動のスタートと位置づけ、重点目標以下のところを変えている。それによって間違いなく教職員の業務は増えるが、負担感で疲弊しないためには、「共有、協働、改善」の視点が必要と考える。また、教員免許更新制の廃止により、研修履歴の活用と対話による研修の推進が求められており、それを盛り込んでいる。いずれにしても、コロナ前に戻るという発想ではなく、本当に子どもたちに必要な活動は何かということに立ち返って考えていきたい。

次年度の学校運営協議会では、今回の意見などを膨らませてさらに発展させ、具体的な計画を立案していきたいと考えています。委員の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

(教頭 越田 淳)